

AI.HALL DANCE COLLECTION VOL.21

2000年度パニョレ国際振付賞受賞2作品連続上演!
91年までアパルトヘイト政策をとっていた
南アフリカ共和国からロビン・オーリン、
東京からは24才の新星、白井剛。
コンテンポラリー・ダンスの最前線をお見逃しなく!!



2/15 (木)
7:30pm開演
7:00pm開場



Daddy, I've seen this piece

Robyn Orlin (ロビン・オーリン) 振付作品 City Theater & Dance Group 公演

six times before

演出・振付・デザイン(舞台美術・照明・衣装) = Robyn Orlin 出演 = Gerard Bester, Nico Moremi, Toni Morkel, Neli Xaba, Dudu Yende, Pule Molebat 舞台監督 = Thabo Pule プロデュース = Damien Valette
助成 = FNB Vita Dance Umbrella, The French Institute, Keith Kirstens, Basa, NAC 技術協力 = SFC 制作協力 = ARTS STAFF NETWORK 宣伝美術 = 大平純子 主催 = 伊丹市、伊丹市文化振興財団



and I still don't know

●会場・予約・問合せ / アイホール (JR伊丹駅前) TEL0727-82-2000 ●料金 / 前売3,000円 当日3,500円 学生2,500円 2日通し券5,000円 学生2日通し券4,000円

※6:30より整理番号発行。※通し券は前売・予約のみです。※学生券をお買い求めの方は当日受付にて学生証をご提示いただきます。●前売取扱 / びあ TEL06-6363-9999 アイホール TEL0727-82-2000

why they're hurting

<ロビン・オーリン プロフィール> 1948年から91年までアパルトヘイト制度(人種差別主義分離政策)が存在した南アフリカ共和国から初来日。シカゴ芸術大学卒業。南アフリカで最も論議に満ちた振付家であり、「いつも変わらぬ挑発者」と呼ばれている。南アフリカの複雑で困難な現実に対して、嘲弄的なアプローチで取り組み、振付言語としての演劇性を探索するために、テキスト、ビデオ、美術など様々な表現手段の統合を試みる。深刻なテーマを扱いつつも、アメリカのミュージカル・コメディが大好きで、ユーモアこそが創作のための唯一の方法だという彼女の作品には、エンタテインメント性にあふれている。
主な作品に「世界を変えられないなら、カーテンを変えよう」(1990)、「ソウェト・ダンス・シアターのための「ホルカ・ドット」は生き続ける!」(1995)、「山羊の上で裸に」(1996)など。
「オルフェウス...じゃなかったエウリディーケ...じゃなかったコーラス・ガールの自然史」(1998)ではFNBウィタ賞を受賞。パニョレ国際振付賞受賞後、ハリ市立劇場での公演も決定。

each other

■ 演出の都合により、客席に椅子を設置しない可能性があります。■ 2月15日、ロビン・オーリンと白井剛によるアフター・パフォーマンス・トークがあります。

パパ、わたしはこの舞台を6回見たけど、なぜこの人たちが傷つけあっているのかまだわからないわ

© John Hogg

